

# 長野県社保協ニュース <21-8>

2016年8月30日(火) 長野県社会保障推進協議会

<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

<http://www.n-syaho.com>

E-mail: [naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp](mailto:naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp)

## 8/27 長野県社保協第5回地域・団体代表者会議開催 安倍暴走政治と野党・市民連合との「激闘」が 続く中、社会保障制度の改悪攻撃に抗し、平和・ いのちを守る大運動を地域から巻き起こそう！



長野県社保協は、さる8月27日(土)第5回地域団体代表者会議を松本勤労者福祉センターで開き、2月の総会以降、半年間の活動総括と秋からの活動方針を確認しました。会議は、前半に公開記念講演、後半に代表者会議を開きました。

当日の参加者は、講演会に日本共産党の地方議員を含め51名、代表者会議に4地域11団体など38名でした。

代表者会議は、代表委員の鈴木信光氏(保険医協会会長)から主催者あいさつ(右下写真)で始まり、記念講演(詳細別記)のあと、湯浅事務局長から基調提案(左写真)がされ、2地域6団体の代表者8名からの発言がありました。

代表者会議では、安倍暴走政治と野党・市民連合との「激闘」の情勢の下で、本年2月総会以降の半年間の活動を振り返り、来年2月予定の次期総会までの約半年間の活動方針を確認しました。

湯浅事務局長がおこなった基調報告では、①政治情勢や社会保障制度の改悪内容等をしっかり学習しながら、多くの県民とともに安民法制(戦争法)の廃止を求める活動や憲法改悪を許さない全国的課題での活動に全力を上げること、②医療・介護などの制度改悪による自治体レベルでの影響や具体化を監視し、秋の臨時国会～来春の通常国会をにらんで更なる制度改悪を許さない全国課題に全力を上げること、③この間の活動によって作られた前向きな変化を踏まえ、「子ども・障がい者等の医療費窓口無料化」実現に向け、新たな県民運動を推進していくこと、④対県、対市町村に向けた「自治体キャラバン」行動の活動に全力を上げること、⑤県社保協への結集強化、地域社保協の活動強化、再開、新規立ち上げに努力すること、などが提案されました。



各地域・団体からの発言では、県推協の「ちごちごの会」から「重度障がい者(児)の置かれている厳しい状況と自治体への要望。状況を発信し続けることの重要であること」(発言概要:下記)、民医連(上伊那医療生協)から「短期保険証で来院した患者さんの困難な状況や受診につなげていく援助と制度改善を要望していくこと重要であること」、医労連から「看護師・介護士の処遇改善を求める活動の報告」、保険医協会から「地域医療構想をめぐる状況と医団連の活動」、県生連から「この間の改善要望をぶつけていった自治体懇談の様子や空白地域への地域社保協結成・再建が必要であること」、新婦人から「子ども等の医療費窓口無料化を求める活動」、長野地区から「介護保険の新総合事業をめぐる長野市との懇談の様子」、諏訪地区から「この間の自治体キャラバンの活動、福祉医療窓口無料化を求める議会請願の状況」などが報告されました。

### (県推協：ちごちごの会の役員の発言概要)

私の息子は松本養護学校ひまわり部に通っていて医療ケア（気管内吸引や導尿など）のほか、更に呼吸器を使用しています。中信地区の重度重複障害のある子や医療ケアのある子を、月に一度タイムケア事業で預かっている「ちごちごの会」を利用している保護者です。ちごちごの会は10年前から医療ケアの子をはじめ、預けるのが困難な子を月に一度預かってくれており、24時間介護してる保護者の力強い協力者であります。タイムケア事業で運営しており、スタッフは医療関係者や学校の先生たちのボランティアで、本当に助かっています。ちごちごの会を利用している保護者として、現状困っている事、こうなっていれば良いと思う事を報告します。医療ケアのある子は看護師さんか保護者しか医療行為が出来ないため、特に呼吸器を付けた子は今現在も預けたりすることが大変困難です。医療の発達で医療ケアのある子は増えているのに、社会参加にはハードルが高くなっています。命は保障されていますが、医療・福祉・教育に関しての保障が不足していると感じます。

まずは医療ケアのある子供の親として医療。特に医療費窓口無料は近々の課題であると思われます。私自身息子は東京で産み長いことNICUに入っていました。医療費は窓口無料でしたので支払いに困ることはありませんでした。しかし長野県に戻って来からの医療費支払いの自転車操業は本当に辛かったです。お子さんによっては色々な制度も受けられず毎月毎月病院で高額の医療費を払い自転車操業をしているお宅もあります。窓口無料の県も増えてきて長野県も早くそうならなければ、、、と願い色々なところで言い続けております。(中略)

## 地域・団体代表者会議 記念公開講演会 安倍医療改革と皆保険体制解体の現局面 ～地域医療を壊す改革、その本質をつかむ 講師：岡崎祐司氏（佛教大学社会福祉学部教授）



地域団体代表者会議の前半は、佛教大学社会福祉学部教授の岡崎祐司氏から「安倍医療改革と皆保険体制解体の現局面～地域医療を壊す改革、その本質をつかむ」と題する講演を受けました。

岡崎氏は講演の中で、まず「参議院選挙の結果と今後の闘い」にふれ、長野県を含め野党統一候補の勝利は、安倍政治を見抜いた市民が政治を動かす、誇り高い勝利であったこと。だからこそ参議院選挙の分析と教訓を明らかにし、次に向けて常に考え続けることが大事である。闘いは始まったばかりだ、と強調しました。

続けて、「安倍政権の医療制度改革」「医師数削減に踏み出す安倍政権」「社会保障改革の工程」と題して地域医療を壊す安倍政権の「医療改革」と皆保険体制の解体の現局面を政府側の資料等も紹介しながら、安倍「医療改革」は、小泉内閣の社会保障費削減攻撃と比較しても最悪のシナリオであり、その本質をしっかりとつかんで運動していく重要性を強調しました。

岡崎氏は最後に、「今後の運動をめぐって」の中で、「権利としての社会保障」を求める全国レベルの運動を強めながら、地域の実態や要求と専門職・担い手の使命を結びつけた「地域ケア」政策づくりの重要性を力説しました。

講演を受けての感想では「安倍政権の危険性、異常性について、改めて具体的に認識した」「むずかしい内容だったが、安倍政治が問題のすり替え、分断・対立の攻撃であることがわかった。共同して学習し、社保協の強化・連帯の大切さがわかった」「9月議会にも参考にしたい」「分断攻撃に対しては、私たちの行動に知恵と工夫が必要だ」「医療削減政策についてもっと学習したい」などが聞かれました。